

令和元年度第1回

札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会

会 議 録

1 日時

令和元年11月18日（月）午後3時開会

2 場所

札幌市役所本庁舎 18階 第4常任委員会会議室

3 出席者

(1) 委員

太田会長、大沼副会長、増淵委員、小路委員、野崎委員、福岡委員、吉田委員、江田委員、隅田委員、荒山委員、内山委員、坂本委員、西塚委員、宮森委員

(2) 事務局

大平環境都市推進部長、高松環境活動推進担当課長、阿部環境教育担当係長、沼倉推進係員

4 議事

(1) 令和元年度環境教育関係事業の実施状況及び今後の予定について

(2) その他

5 議事内容

以下のとおり。

なお、内容については、当日の会議出席者に確認済み。

1. 開 会

○太田会長 皆さん、こんにちは。

お一人遅れていらっしゃるようですが、皆さん、悪天候の中をお集まりいただきまして、ありがとうございました。

昨年度は、基本方針の改定年度ということもあって、会議やワークショップで結構頻繁にお会いしていたのですが、本日は令和になってから第1回ということで、本当に久しぶりにお会いできたかなと思います。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、定刻となりましたので、ただいまから、令和元年度札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会を開催いたします。

まず、事務局から、出席状況など連絡事項がございましたらお願いします。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 初めに、4月1日付で事務局に人事異動がございましたので、ご報告いたします。

環境活動推進担当課長には高松が、環境教育担当係長には、私、阿部が就任しております。どうぞよろしく願いいたします。

次に、委員の出席状況ですが、本日は、増渕委員以外の13名の皆様にご出席いただいております。委員数14名の過半数に達していますことから、推進委員会設置要綱第5条第2項の規定によりまして、本委員会が成立していることをご報告いたします。

○太田会長 ありがとうございました。

◎挨拶

○太田会長 それでは、議事に先立ちまして、札幌市環境局環境都市推進部長の大平部長からご挨拶がございます。どうぞよろしく願いします。

○大平環境都市推進部長 皆さん、お疲れさまです。

環境都市推進部長の大平でございます。

開会に当たりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

今日は、委員の皆様には、大変お忙しい中、また、雨や風も強い中を集まっただき、ありがとうございます。

先ほど太田会長からお話がありましたが、前回の開催が3月で、それから8カ月ほどたった開催となりました。お一方はまだいらっしゃっていませんが、今回、皆さんにご都合をつけていただいて、全員参加と聞いております。重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

本日は、次第にもありますとおり、環境教育事業の実施状況と今後の予定について我々から報告させていただきますので、従前どおり遠慮なく忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

さて、皆様もご存じのとおり、9月にニューヨークで国連の気候行動サミットが開催されました。環境活動家であるスウェーデンの16歳の少女が、各国代表の政府の前で地球

温暖化対策の即時実行を強く求めたことが大々的に報道されております。若い世代が問題意識を持って行動することは、改めて、社会や大人たちへ大きな影響を与えるものだなと感じたところであります。

また、日本をはじめ、世界中で異常気象や自然災害が相次ぎ、甚大な被害をもたらしております。こうした中、持続可能な社会を実現していくためには、まずは、我々世代の役割、責任が重要であります。次世代の子どもたちへの環境教育や環境学習も非常に大事であると改めて実感しているところであります。

新しい基本方針では、環境教育・環境学習の理念を「みらいを想い、みんなを思い、真剣に考え行動できる環境市民を育てます」としております。今後は、この方針に基づきまして、各種取り組みを進めてまいります。豊かな生活は環境の恵みの上に成り立っていること、そして、自分たちの活動がその環境に大きな影響を及ぼしていることを理解し、問題の本質を捉え、行動できる人材の育成を目指していきたいと考えております。

最後になりますが、環境教育・環境学習の推進には、さまざまな担い手との連携、各種関係機関との協力が不可欠であります。これからも皆様方のお力添えをお願い申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○太田会長 大平部長、ありがとうございました。

2. 議 事

○太田会長 それでは、議事に入らせていただきます。

2時間程度と承っておりますが、できれば4時半ぐらいにはまとめに入りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議事は、次第にタイトルが出ておりますが、令和元年度環境教育関係事業の実施状況及び今後の予定についてです。

委員の皆様には、事務局からの説明の後でご意見等をいただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 改めまして、環境教育担当係長の阿部と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、資料の確認をさせていただきたいと思っております。

本日お配りしました資料は、まず、次第、委員名簿、資料2の環境教育関係事業について、そのほか、参考資料として、札幌市環境教育・環境学習基本方針の本書、同じく、基本方針の概要版、札幌市の環境教育・環境学習という冊子、環境教育へのクリック募金のパンフレット、夏休み版のエコライフレポートということで、小学生用が2種類、中学生用が1種類、認定証の見本が2種類の5枚つづり、校外学習用バスのモデルコース、環境保全アドバイザー、環境リーダーの講師派遣のパンフレット、こども環境コンテスト20

19のチラシ、最後に、SDGsの達成に向けた札幌の高校生たちの活動という資料になっています。全ておそろいでしょうか。

不足がある場合は、事務局までお申し付けください。

それでは、今年度の環境教育関係事業の実施状況や今後の予定などについてご説明させていただきます。

平成31年3月に改定しました札幌市環境教育・環境学習基本方針の第4章に、人々が環境問題を理解し、環境保全の行動を進め、さらに多くの人に行動が広がるよう、札幌市が主体となって推進する四つの取り組みが位置づけられています。

一つ目が学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進、二つ目が「環境人材」の育成、三つ目が環境教育・環境学習の場と機会の充実、四つ目が普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押しです。

環境教育関係事業は、これら四つの取り組みに基づいて実施していることから、各事業をそれぞれの取り組みに分類しまして、取り組みごとに区切り、順にご説明をしたいと思います。

まず、(1)学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進、(2)「環境人材」の育成を一括でご説明いたします。

お手元に配付の資料2の1ページをご覧ください。

初めに、(1)学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進についてご説明いたします。

まず、アの環境に関する教育課程研究実践校事業についてです。

令和元年度は、札幌らしい特色ある学校教育推進事業の一環として、教育に関する教育課程実践校として5校が指定され、持続可能な社会の実現に向けた環境に関する活動について研究実践を行い、全ての園、学校に研究成果等を提供することで、環境教育の充実を図ります。

下の表にありますとおり、今年度の実践校は、西白石小学校、富丘小学校、定山溪中学校、福井野中学校、札幌大通高等学校の5校です。これらの学校には、12月7日に開催することも環境コンテストにおきまして活動内容を発表してもらいます。

なお、本事業につきましては、教育委員会が所管しております。

次に、イのさっぽろエコスクール宣言・さっぽろっこ環境ウイークの取り組みについてです。

札幌市の全ての市立幼稚園、学校では、自校において節電、節水、ごみ減量などの取り組みを行ってございまして、教育委員会がエコスクール宣言校として認定しています。

エコスクール宣言校では、環境首都・札幌の宣言日である6月25日の前後2週間をさっぽろっこ環境ウイークといたしまして、この期間を中心に「環境」をテーマとした取り組み、エコアクションを重点的に実施しております。

この取り組みにつきましても、教育委員会が所管しております。

次に、2ページをご覧ください。

ウの環境副教材・教師用手引書についてです。

毎年度、市立小学校の新1年生、3年生、5年生の全生徒に環境副教材を配付しております。また、教師用手引書も配付をしております。より利用しやすい副教材、手引書とするために、理科、社会科、家庭科、生活科、特別な教科・道徳の各担当教員によるワーキンググループを組織いたしまして、改訂を行っております。

次に、エの環境教育へのクリック募金についてです。

環境教育へのクリック募金は、インターネットを活用した環境教育への支援制度ということになります。札幌市環境プラザのホームページ上で、企業の環境活動を紹介します。閲覧数に応じまして、金額を協力企業、現在8社にご協力いただいておりますけれども、ご寄附をいただきまして、それを原資に環境教育教材を購入、寄贈しております。

今年度につきましては、小中学校38校に、手回し発電機、ガス検知管、トマトや枝豆の野菜苗などを環境教育教材として寄贈しました。

また、クリック募金のホームページ上で事業報告書を公開し、各年度の学校での取り組み内容を紹介しており、今年度分につきましては、年度末に公開をする予定になっております。

次に、オのエコライフレポートについてです。

エコライフレポートは、小・中学生に家庭のエコリーダーとして環境配慮行動を意識して実践してもらうことを目的としまして、平成19年度から実施している事業です。夏休み及び冬休み前に全市立小中学校の児童生徒に用紙を配付して、身近なエコ行動の取り組みを促すものとして実施しております。

3ページの表にありますとおり、今年度の夏休みエコライフレポートの取り組み率は、小学生で97%、中学生で92.1%という結果になっておりまして、小学生、中学生の全体では95.4%でした。

昨年度からは、節電などのほか、環境に優しいものを意識して使ってもらうため、エコマークのついた商品をたくさん見つけるという項目ですとか、地産地消を促進するため、北海道産の野菜を食べるといった項目を取り組みとして設定しておりまして、3年間同様の取り組みを続けてもらうために、令和2年度、来年度まで項目を変えずに実施いたします。

また、今年度につきましては、SDGsについて知ってもらうために、SDGsとは何か、自分たちとどのような関係があるかにつきまして掲載し、SDGsマスターになろうと呼びかけたところでございます。

なお、取り組み結果につきましては、これまでと同様、各学校においてどのくらいCO₂削減効果があったのかを記載した認定書を配付しています。

本日は、夏休みエコライフレポートの用紙として、小学生1年生から3年生用、4年生から6年生用、中学生用の3種類と、認定証の見本を参考資料としてお配りしております

ので、後ほどご覧いただければと思います。

3 ページの下段をご覧ください。

次に、カの校外学習用バス貸し出しについてです。

環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小中学校を対象に環境教育に関する校外学習用バスの貸し出し事業を行っています。道内連携や学校現場のニーズなどを踏まえ、平成28年度から札幌近郊や民間企業施設も見学対象施設として拡充しております。具体的には、太陽光発電ですとか風力発電の設備、LNG（液化天然ガス）基地などを見学施設に組み込みまして、実践的に学べるよう工夫しております。

なお、今年度につきましても、昨年度同様、バスの手配が困難な夏季の観光シーズンを避けて実施しておりまして、貸し出し期間を10月14日から12月13日までとし、46校が利用予定となっております。

4 ページの表になりますが、主な見学場所といたしましては、清掃工場、アイヌ文化交流センター、水道記念館・藻岩浄水場などが予定されています。

また、校外学習バスの貸し出しに関しましては、ここ数年、希望する学校が減少しております。例年3月から4月にかけて募集案内をしておりましたが、人事異動などによりまして、後任の先生に引き継がれずに、応募に至らないというケースも想定されたため、今年度は募集時期を4月からとする工夫をいたしました。しかしながら、今年度もわずかに減少しておりまして、次年度は、周知方法、募集時期の工夫や、なかなか難しいかもしれませんが、貸し出し期間の前倒しを検討いたしまして、希望する学校の増加に取り組みたいと考えております。

4 ページの下段をご覧ください。

次に、キの教員に向けた研修についてです。

札幌市の学校教育に携わる教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的に、教育課題研修コースにおいて環境教育、教職基礎研修コースにおいて環境教育の基礎などの環境教育に関する専門的研修を札幌市教育センターで実施し、今年度も延べ30人以上の教員が受講する見込みになっております。

なお、こちらにつきましては、教育委員会が研修を実施しております。

次に、クのエネルギーに関する環境教育の推進についてです。

市内の小学校112校、中学校43校に太陽光発電設備を設置しておりまして、環境学習に活用できるよう、発電量等をモニターで確認できる設備を備えています。

先ほどの説明と重複いたしますが、校外学習用バスの貸し出し事業におきまして、太陽光発電や風力発電などの再生エネルギー、LNG基地などを見学施設に組み込んだモデルコースを設けまして、実践的に学べる取り組みも行っております。

次に、(2)「環境人材」の育成についてご説明をしたいと思います。

5 ページをご覧ください。

まずは、アの環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣についてでございます。

市民団体、町内会、学校などに対して、環境に関するアドバイザーやリーダーを派遣する制度です。

札幌市環境保全アドバイザー派遣制度は、地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題などの消費生活など、さまざまな環境分野の研修会、学習会等に専門家を派遣する事業となっておりまして、13人のアドバイザーに登録をいただいております。

札幌市環境教育リーダー派遣制度は、主として野外での活動を通じまして、植物、野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や、地球温暖化、ごみ、エコライフ分野の指導、解説者を派遣する事業でありまして、31人のリーダーに登録をいただいております。

今年度当初のリーダー登録数は29人ですが、リーダーの高齢化が進んでいるため、スキルを継承しながら世代交代をしていく必要があることと、近年、複数のリーダーの派遣が必要となる川での水生生物の観察会とか、幼稚園、保育園による自然体験会の需要が増加しており、対応可能なリーダーが不足していることもありまして、今年度、新規募集を行い、2人のリーダー増員を行いました。

なお、平成30年度から環境教育リーダー制度運営事務取扱要領を一部改正いたしまして、1団体当たりの派遣回数を3回から2回に減らしました。これによりまして、1団体の利用回数を減らし、利用する団体数を増やすことで、環境教育の広がりを狙っています。

6ページの表にありますとおり、今年度の10月末現在の実績は、環境保全アドバイザーの派遣件数が32件、参加人数が1,600人、環境教育リーダーの派遣件数が49件、参加人数が1,591人となっております。

次に、この札幌市環境プラザにおけるリーダー育成、(ア) こどもエコクラブについてです。

環境プラザでは、公益財団法人日本環境協会が実施するこどもエコクラブの札幌市内における事務局を担っておりまして、こどもエコクラブへの登録団体、及び、これから環境に関する活動を進めようとする団体への情報提供などを行っております。

今年度は、こどもエコクラブを新設した団体へ全5回のプログラムを提供いたしまして、指導者と子どもの双方に主体的な学びの方法を伝える支援をいたしました。

市内のこどもエコクラブ交流会では、安全な食べ物がどのようにつくられているのかを知り、地産地消に目を向ける機会として、市内の農園を訪れ、野菜づくりをしている方々から直接話を聞く、食べ物の産地訪問～さっぽろ産の野菜～を実施いたしました。

活動を通じまして、エコクラブのサポーター同士が活動内容を情報交換することもできまして、意義のある交流会となりました。

次に、(イ) の学生サポーター制度についてです。

平成27年度に環境プラザ学生サポーター制度を創設いたしました。環境プラザが行う事業に運営サポーターとして参加する機会を設けるとともに、学生サポーター自身にとっても環境教育への理解を深め、今後の活動に生かせる学びの機会となるよう運営しています。

次に、（ウ）の指導者向け研修についてです。

保育者や教員などを対象に、持続可能な開発のための教育（E S D）に関する研修の実施を予定しておりまして、さまざまな場面での環境教育や環境保全活動の展開を目指します。

次に、7ページをご覧ください。

ウの環境教育ワークショップの開催検討についてです。

環境問題を含みます社会課題につきましては、2030年に世界を持続可能な社会とするための目標であるSDGsの視点から、さまざまな分野や他者とのかかわりの中で解決していくことが求められます。そのため、今後は、環境問題につきましては、より広い視野で捉え、他者とのコミュニケーションを図りながら行動できる人材を育成していく必要があります。そこで、諸課題の同時解決の視点などを盛り込みながら、環境問題について考えてもらう環境教育ワークショップを来年度中に開催することを検討していきます。

対象は小学生、中学生といたしまして、卒業後も継続して環境について真剣に考え、行動し、将来には周りにいるみんなをリードしていくような人材を育てていくことを目指していきたいと考えております。

ワークショップに参加した小学生、中学生が、次のステップとして卒業後に活動するイメージといたしましては、あくまでも例ですが、市内においてSDGsの達成に向けて活動する高校生がおりまして、彼女たちのように活発に活動をしてもらえたらと考えております。

ここで、参考に、SDGsの達成に向けた市内の高校生の活動を紹介させていただきたいと思っております。

資料もありますが、スクリーンに映させていただきたいと思っておりますので、そちらをご覧くださいいただければと思っております。

1枚目は、子ども食堂についてです。

北星学園女子高校の生徒が中心となりまして、西11丁目近くにありますビルで、月に一度、近隣の小学生を対象とした子ども食堂、なまら食堂を開催しております。子どもたちは、宿題や勉強のサポート、栄養価を考えられた食事の提供が無料で受けられます。

運営は、同じビルに入居しているワーカーズコープがサポートしておりますが、メニューの検討や食材の調達などは、高校生が自ら実施をしています。

また、なまら食堂運営メンバーを中心に、学生が働くことや学生活動について自ら考え、行動する任意団体、学生ワーカーズを設立して、昨年度、SDGsに関する勉強会やワークショップを開催しております。

次に、2枚目は、フェアトレードの普及についてです。

市立札幌啓北商業高校の学校祭で、東ティモール産のコーヒーやバングラデシュ製のバッグなど、約40種類のフェアトレード商品を販売しました。英語を担当している教師が生徒たちの活動をサポートして、実践につなげています。

次に、3枚目は、ゲーム開発です。

市立札幌大通高校の遊語部が、SDGsやフェアトレードを楽しみながら学べるゲームを開発いたしました。ゲームの形態はすごろくで、フェアトレード商品を生産、販売している国をめぐるものや、升目に止まるとSDGsやフェアトレードに関するクイズが出されるものがあります。

今年は、毎年6月に大通公園で開催されていますフェアトレードフェスタに来場者が体験できるコーナーを設けました。

次に、4枚目は、商品開発についてです。

教育活動の一環としまして、札幌大通高校の屋上で行っている養蜂活動により生産された蜂蜜と、神戸の酒造メーカーの沢の鶴がコラボした蜂蜜入り甘酒が開発されました。日本酒の製造過程で出てきます酒かすを廃棄することなく、地産地消でつくられた蜂蜜とかけ合わせることで、新たな価値をつくり出す商品として、SDGsの取り組みの一環として実施されました。1万8,000本ほど限定で生産されたのですが、もうそろそろ売り切れ間近だという情報があります。

次に、5枚目と6枚目は一緒の説明になりますが、SDGsの普及についてです。

札幌開成中等教育学校の有志4名が集まりまして、SDGsの普及活動を実施しております。2018年、昨年6月に、当時、中学3年生でありました4名が、環境広場さっぽろで学校生活とSDGsのつながりについてプレゼンテーションを行ったことをきっかけといたしまして、以降、SDGs先進地であります下川町を自主的に視察したり、さまざまなイベントでSDGsに関する発信を行ったりしております。

さらに、SDGsを体験できるまちづくりをテーマにしたゲームを開発し、市内で実施しているほか、彼女たちの取り組みが神戸にある松蔭高校の目にとまりまして、この8月には、同校で開催されましたBlue Earth Project全国活動報告会でゲームを披露いたしました。

6枚目は、SDGsの普及ということで、松蔭高校で活躍している場面です。

最後に、7枚目は、ユースとともに実現するSDGsの達成についてです。

昨年10月に、高校生がメンバーとなっております学生ワーカーズ、札幌市、北海道大学、EPO北海道などが連携いたしまして、SDGsをテーマとしたユースの取り組み紹介や、株式会社アレフ、損保ジャパンなど、企業の取り組みを学び、互いに持続可能な社会について対話する機会を設けました。

また、今年3月に、企業、札幌市、北海道などが連携して、SDGsをテーマとした短編動画作品コンテスト、SDGsクリエイティブアワードを開催いたしました。全国から150作品以上が集まった中で、北海道知事賞、札幌市長賞は、ともに市内の高校生の作品が受賞したということです。今年度も来年の3月に第2回を開催予定で、現在、作品を募集しているところでございます。

(1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進、(2) 「環境人材」の育成に

ついでの説明は、以上となります。

○太田会長 阿部係長、ありがとうございました。

資料2に基づきまして、(1)と(2)、そして、札幌の高校生のさまざまな活動についてご説明いただきました。

まずは、1ページから7ページ、(1)の学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進、(2)「環境人材」の育成、そして、カラー印刷の参考資料のSDGsの達成に向けた市内の高校生の活動についての範囲で、ご意見やご質問等はございませんでしょうか。

○隅田委員 新しく、今年の3月の時点で札幌市環境教育・環境学習基本方針ができて、それにのっとって進める中で、今回、実施状況と今後の予定ということだと思います。

最初に、学校などでの教育の推進、「環境人材」の育成、場と機会の充実、広報と行動の後押しの四つに分かれているという説明があったのですが、例えば、概要版の(1)の学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進の中には、アからエまで項目が挙がっています。例えば、アの(ア)では、自然体験学習などの環境に関する学習活動の研究実践、エコスクール、エコアクションというのがあり、(ウ)ですと、環境問題を体系的・計画的に理解を深めるための「カリキュラム・マネジメント」、(2)の「環境人材」の育成ですと、イの専門家、学校、市民活動団体、事業者などとの協働として、(ア)から(エ)まで挙がっているのですが、その他の項目の実施状況は上がってこないのでしょうか。この項目に沿って、今回の実績はこうでした、予定はこうでしたというのがあると、新しい基本方針にのっとって進んでいるのだなということが分かりやすくいいと思ったのですが、いかがでしょうか。

○太田会長 (1)と(2)を幅広く捉えたときに、今ご説明があった項目以外にもたくさん出されているので、この辺の背景、取り組み、推進の様子はいかがでしたでしょうか。

○事務局(阿部環境教育担当係長) こちらに載っている項目は、札幌市でやっている環境教育・環境学習ということで、ほかの部局でやっているものも全て掲載させていただいています。今は、主に私どもの環境局環境計画課で所管している事業をご報告させていただいております。全てを報告させていただいているものではありません。

○隅田委員 わかりました。部局の関係でということですね。

○事務局(阿部環境教育担当係長) はい。

ただ、今、札幌市全体でどういった環境教育の事業をやっているかを集約し、一つにまとめまして、全体としてこういうふうに行っているとお示しできるものを作成している最中ですので、そちらでしっかりご報告できるように考えております。

○太田会長 環境にかかわる基本方針には、各方面からいろいろなご意見が集まってくると思いますが、ここでは、環境教育と環境学習に関する取り組みに対してご意見を出していただき、それがまた一つに集まっていくのではないかと思います。

四つの取り組みのうちの(1)と(2)に関わって、他にございませんか。

○内山委員 資料2の5ページの「環境人材」の育成のところ、環境保全アドバイザー

と環境教育リーダーの派遣は非常に人気があるというご説明があったと思います。人気が出てくれば、派遣回数が増えるなど、どうしてもそのような対応をせざるを得ないことは分かるのですが、専門家に来てほしいという現場のニーズは理解するものの、最終的な目標は、できれば団体自らが観察会などを開催していけるようなノウハウを身につけるところにあると思います。この派遣制度と研修制度を融合させながら人材を育てていく方向も検討してはどうかと思いました。

これは、質問ではなく、意見です。

○太田会長 内山委員から5ページの「環境人材」の育成にかかわってご意見が出されましたが、関連してございますか。

(「なし」と発言する者あり)

○太田会長 それでは、ご意見も含まれていますので、どのようにお考えいただくか、係長からお答えください。

○事務局(阿部環境教育担当係長) リーダーとアドバイザーの制度というのは、本来、団体が自主的に活動することを補助するものになっていますので、今いただいたご意見を参考に、ご利用された団体が、その後、ご自身でもっと積極的に活動していただけるように、今後、私どもも検討していきたいと思います。

○太田会長 派遣回数3回を要望していたところは多かったのでしょうか。かなり偏っていたということですか。

○事務局(阿部環境教育担当係長) そうですね。多かったです。

○太田会長 それを2回に減らしていただいて、その分を他の団体さんに使っていただくという形ですが、これに関わってご意見等はございますか。

○大沼副会長 今、内山委員におっしゃっていただいたことと同じで、6ページの上にアドバイザーやリーダーの派遣件数等々の数字が出ていますが、何か評価指標のようなものを出すならば、これだけではなくて、派遣を要請した側の団体が、その後、これだけ自主的にできるようになったよというフォローアップの形で成果を出さなければいけないと思います。これは数字を出せるのか、定性的なものなのかは、すぐに答えが出ないと思うのですが、この数字だけでは減っているように見えてしまうので、派遣された団体が2回も3回もよろしくとお任せになってしまうのではなく、自分たちでできるようになったのだというものを評価の指標として見るべきではないかというご提案だと受け止めました。単に数字を集めましたではない評価のあり方としないと、せっかく良いことをやっても、良いことに見えないのがすごくもったいないと思いました。

○太田会長 ありがとうございます。

各団体の自主性を促すという意味ではございましたが、それについての評価が見えづらいうという貴重なご意見かと思えます。

さらに関連してございますか。

○江田委員 派遣回数が3回から2回に減少したということですが、これはリーダーの数

の問題なのでしょうか。他にどのような問題があって2回にしたのか、伺いたいと思います。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 経緯といたしましては、派遣するにも予算が決まっておりますので、年間何件という上限を決めて運用していく中で、先ほど申し上げましたが、やはり3回を希望する団体が多いため、多くの団体に使っていただくことを目的としまして、回数を2回までということにいたしました。

○太田会長 今年度からですね。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 平成30年度からということになります。

○太田会長 申し訳ありません。失念しておりました。昨年のお話し合いの中でも出ていたのかもしれませんが。限られた予算で多くの団体という意図は分かります。

○野崎委員 自分の学校では、過去に、例えば、発寒川などの水生生物の観察などで、教員だけだと何とも分からない部分を補ってもらうために来てもらっていた経験があります。そのことを踏まえて考えていくと、例えば、総合的な学習の時間の中で、環境リーダーに来ていただいて、こういう形で授業を組みたいというモデルが自分たちの中であって、打ち合わせをして、必要な回数を来ていただくということだったと思うのです。今のお話を聞くと、予算の問題もあるので、新しい人材をといるところも含めて考えると、どうしても、私たち学校は、プロパーの人に来てもらって、説明をしてもらって、安全面も含めて、いっぱい来てもらったほうがより良いということをお願いしていたと思いますが、さらに、先生たちもどういうふうにして学ぶと良いのかとか、環境リーダーの使い方という言葉は余り良くないかもしれませんが、どのように活用するとより効果が上がるのかというモデルケースを考えていく必要があると思って聞かせていただきました。やはり、時数の関係等もあると思いますが、その中で教師自身もよりプロパーに近づけるような効率的な関わり方をみんなで考えていく必要があると思います。

○太田会長 提言も含まれていたかと思いますが、その辺も加味させていただきたいと思います。

ほかにございますか。

○坂本委員 教員向け、あるいは、指導者向けの研修を実施されているということは分かるのですが、どういう方がどういうテーマで研修されているか、内容を簡単に教えていただけますか。

○太田会長 二つ出ていましたが、具体的には触れていませんでした。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 4ページのキの教員に向けた研修は、宮の沢の教育センターなどで実施し、専門的な講師に来ていただいており、教育委員会が主催しているものになります。

6ページが一番下の（ウ）のところにありますが、環境プラザでは、保育者や教員の方に集まっていただいて、ESDをテーマに研修をやる予定です。ESD自体を学んでいただくことはもちろん、横の連携をつくっていただきたいという趣旨で、まだ日程は決まっ

ていませんけれども、進めていくことになっております。

また、まだご説明していませんが、7ページが一番下のイに環境教育関連施設連携事業の実施とあります。次の8ページですが、10月に、環境プラザなどを中心としまして、インタープリターズキャンプを開催しました。これは、環境活動の実践者や指導者向けの講座として、インタープリテーションの基本や実践、地域資源を生かしたプログラムデザインを学んでもらうもので、横のつながりを活用することも学んでもらいました。

○太田会長 これからのものも含まれているのですか。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 混同しております、申し訳ありません。

○福岡委員 教育課題研修コースや教職基礎研修コースに関しましては、市内の環境教育を実践されている先生方の実際の授業がどういうものなのかというところをお話ししています。私が話をさせていただいたときには、小学校の先生、中学校の先生、高校の先生の3名が講師となりまして、市内の先生方を集めて、半日お話を聞くという形でやりました。

なので、小学校の実践も分かりますし、それぞれやっている場所は違いますが、中学校に行ったらこういう活動ができるのだ、また、高校になるとより専門的になるということで、子どもたちの発達段階に合わせて、取り組みの様子が先生方に広く伝わり、それを参考にしながら、先生方も自校の実践に活用していくという取り組みだったと思っております。

○太田会長 福岡委員は運営に実際携わっておられますので、詳しくお話しできると思うのですが、教員に向けた研修が二つ出ております。今の説明から、午前中に3人の講師で行ったということで、成果も上がったのではないかと思うのですが、参加者のご意見や成果の一片でもお聞かせ願えたらと思います。

○福岡委員 小学校、中学校、高校の先生が参加されていまして、高校の先生からは、小学校でもこういう専門的なことができるのか、小学校で環境に対しての意識を高めていった中で、高校生ぐらいになると環境に対する意識が弱くなってしまいますので、小学校での高まりを持続させていくためにはどうしたら良いのだろうという話をされていまして。

要するに、小学校では、全体で子どもたちに指導していますが、高校生になってくると、だんだんと興味のある子どもに対しての指導が強くなってきて、一般の生徒たちに対して環境教育を行う際には、難しい部分があるというお話が出ておりました。

○荒山委員 今月、たまたま学校の先生方の環境教育の分野の合同研究会に参加させてもらったり、環境省が主催する高校生のコンテストの北海道予選に参加する機会があつて、今おっしゃっていたことを聞いて、そうなのだと思います。実業高校とか、割と地方の学校が多く、特に、進学校はそうですが、高校になると、そんなことをやっている暇があるなら受験勉強に関係あることをしてほしいという要望が強くなり、授業ではなかなかやりにくいのだ、外に出ていけないのだということを先生方がおっしゃっていました。きっと生物部や科学部では熱心にやられていると思えますし、生徒たちのプレゼンテーション

は非常にすばらしかったのですが、一般の授業の中でやるのは難しいと高校の先生はおっしゃっていましたね。

ただ、高校生ぐらいになると、やれることの幅がどんどん増えていくし、この前のサミットの若者たちの様子を見ていても、社会に訴えていく可能性を持つ世代なので、小中で蓄えた力を発揮してほしいなと思いながら見ていました。

○小路委員 今の部分とも関わるのですが、最後に説明してくれた高校生たちの活動というプリントを見て、高校の日常的な活動の中で、これだけすばらしいものがあるって、これを経験した子どもたちは、明らかに環境リーダーの資質を持っていると思うのです。ただ、これが散逸した状態だともったいないような気がするので、事務局として、この活動を集約したり、データベース化したりしていく予定があるのかどうかという質問と、もしないのであれば、ぜひそういう形で何か取り組みができれば良いなという意見です。

また、先ほどの基本方針の概要版に関して、6 ページに今説明してくれた学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進があり、今年取り組みを見てみると、これは今までの継続的な取り組みですね。ここにあらわれている部分で、新しい環境学習基本方針に即していったときに、ちょっと難しいと思っているのは、(1) のアの(ウ)と(エ)です。学校としては、環境教育を取り組む上でものすごく大切なのが、やっぱりカリキュラム・マネジメントの部分と、今は、縦の系列、幼・小・中・高のつながりも大事なので、就学前の子どもの環境教育の情報収集等については、長期的なスパンが必要だと思うのですが、この部分で具体的に何か考えていることがあれば、お聞かせ願いたいという2点です。

○太田会長 2点ございました。

この活動についての集約化と、小・中・高の連携をどうやって育てていくかという視点の二つがあったと思うのですが、いかがでしょうか。

○事務局（高松環境活動推進担当課長） 一つ目の高校生の取り組みの集約、発表の場については、今は受け皿がありませんが、環境局で活動を知る機会が多いので、情報はいっぱいあります。

また、各高校生を一堂に集める場をつくっていきたいということで、環境局では、今、8回にわたる気候変動ワークショップをやっています。大人も含め、中学生、高校生、大学生が入ってきて、夜遅くの6時半から8時45分に集まってやっているのですが、そういったところで、いろいろな学生たちの横のつながりであったり、頑張る学生たちを応援する企業の活動があったりというステークホルダーをつなげていくようなことを醸成できないかと考えているところであります。

次の小学校、中学校、高校の話ですけれども、来年度、小学校、中学校のワークショップを検討しており、ワークショップを運営していく人として、今、このように活動している高校生を運営者として、年の近いお姉さん、お兄さんが動かしてくれないかなということも企画しております。

○小路委員 とてもすばらしい構想だと思うので、ぜひとも進めていただきたいと思います。

す。

また、これだけすばらしい取り組みをしている高校生が、例えば、環境コンテストの前段階でメッセージを伝えるという取り組みもできると思いますので、ぜひとも積極的に活用していただければありがたいと思います。

○太田会長 環境プラザを中心とした活動になっていくと思いますが、データベース化や知ることができるベースづくりが必要かと思います。

関連して、私は大学で教えていますが、小路委員から高校生のリーダーが出てきたという話がありましたように、大学でもボランティアの活動が非常に活発になってきています。

ただ、ボランティアに一生懸命行く子は一人で相当な回数を行き、全然行かない子は4年間ゼロということで、差がついています。小・中・高・大と進むにつれて、確実にリーダーは育てていると実感しております。

今、中学校では、環境リーダー的な育ちはございますか。

○小路委員 具体的に言うと、環境リーダー的な育ちはなかなか難しいと思いますが、環境コンテストは非常に大きい影響を与えていて、環境コンテストで発表している学校の子どもたちが、いろいろな場所で環境についての取り組みをアピールしてくれています。

また、毛色は全然違うのですが、中学校の科学部が集まって発表会をしております、私たちの科学研究発表会は毎年11月に行われています。その中では、環境に対する取り組みがものすごく多く、川の資源の保存や絶滅危惧種に対する保護活動といった部分で、環境リーダーとして意識はないのかもしれませんが、環境に対するベーシックな取り組みがものすごく進んでいます。我々もそういった発表をもうちょっと周知できるといいなと思っております。

○太田会長 実態を教えてくださいまして、ありがとうございます。

今、環境コンテストの話がございましたので、続いて、(3)と(4)の説明に移ってもよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○太田会長 では、説明をお願いいたします。

○事務局(阿部環境教育担当係長) それでは次に、(3)環境教育・環境学習の場と機会の充実、(4)普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押しにつきまして、一括でご説明させていただきたいと思います。

まず、(3)環境教育・環境学習の場と機会の充実についてご説明いたします。

資料は、7ページの中段です。

アの環境プラザにおける学習支援等についてです。

環境プラザ見学者への展示解説や展示物を利用した見学者向け環境教育プログラムの実施、教材の貸し出しなど、利用者の要望に合わせた学習支援を行っております。

また、夏休みには、平成30年度に引き続きとなりますが、「夏休み自由研究応援講座～まちの中で養蜂体験!」と題しまして、札幌の街なかで行っている養蜂を専門家から直

接教えていただいて、採蜜体験やミツバチの観察を行うプログラムを実施いたしました。自分たちが普段食べているものがどのようにできているかに関心を持つきっかけをつくるとともに、体験だけにとどまらない主体性のある学びの方法を伝えました。

このほか、環境広場さっぽろ2019や東区児童会館まつりへの出展など、さまざまなイベントにおいて環境に関する体験学習の場を提供しましたほか、市民活動団体や大学と連携した事業を実施しました。

さらに、家庭の消費電力見える化機器である省エネナビの貸し出しや環境相談員による省エネ節電のミニ講座なども行っておりまして、エネルギー学習の支援をしております。

次に、この環境教育関連施設連携事業の実施についてです。

こちらは、先ほども触れましたが、人材の育成的な要素も含まれているものになります。より効果的な環境教育を推進するため、市内の環境関連施設との情報を共有、活用することで、施設間の連携を深めております。

平成28年度から実施しておりますが、インタープリターズキャンプ in 札幌を、各環境教育関連施設の共催で今年度も実施しております。札幌市青少年山の家を会場に、環境活動の実践者や指導者向けの講座として、公益財団法人キープ協会から講師を招き、インタープリテーションの基本と実践や、地域資源を生かしたプログラムデザイン、活動の幅を広げる他者との連携協働について学びました。

また、昨年度に続き、生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの主催で、クイズに答えながら各施設を巡る、いきものつながりクイズラリーを開催いたしました。

次に、8ページの中段をご覧ください。

ウのさっぽろこども環境コンテストについてです。

12月7日に、小中学生の環境活動を発表する、さっぽろこども環境コンテスト2019を開催いたします。今年度は、学校外団体の部が3団体、小学生の部が2校、中学生の部が6校の合計11団体に参加をいただきます。

そのほか、環境に関する教育課程研究実践校の札幌大通高等学校にも特別発表をしてもらいます。

また、各部の最優秀賞を受賞した団体には、年明けに市役所本庁舎におきまして市長報告会を開催して、市長へ直接発表内容を伝えていただく予定となっております。

参考として、コンテストのリーフレットを配付させていただいておりますので、ご覧いただければと思います。

次に、(4)普及啓発のための情報の発信、広報と行動の後押しについてご説明いたします。

9ページの中段をご覧ください。

まずは、アの環境プラザホームページ等についてです。

環境プラザでは、講師派遣や貸し出し教材、事業などにつきまして、ホームページを利用して情報提供を行っております。

また、フェイスブックやブログを利用した情報発信も行っております。

下の表にありますとおり、今年度10月末現在のアクセス件数ですが、環境プラザのホームページが4万4,133件、キッズページが1,466件となっております。

次に、この「環境中間支援会議・北海道」の取り組みについてです。

環境中間支援会議・北海道は、行政や地域など、さまざまな組織との間に立ちまして、情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う組織で、環境省北海道環境パートナーシップオフィス、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ、NPO法人北海道市民環境ネットワークの4組織が連携して、北海道内におけるさまざまな環境活動を支援するための連携組織となります。こちらには、環境省北海道地方環境事務所、北海道、札幌市もオブザーバーとして、定期的開催される会議に参加しております。

このほか、環境教育施設に関する勉強会なども公開により行っています。

ホームページの環境☆ナビ北海道におきまして、環境に関するイベント情報や助成金などの公募情報、キャンペーン情報などを配信しております。

次に、10ページのウは、「環境教育・環境学習レポート」の作成です。

こちらは、先ほど隅田委員からご質問いただいた部分で、札幌市で行われている環境教育の事業をまとめてレポートにするものになっております。

作成したレポートを庁内で共有することにより、各部局が環境教育・環境学習に対する意識を高め、新しくできました基本方針の趣旨に沿った事業展開を図るよう促進するとともに、庁内外との協働、連携により環境教育関連事業を推進していくための資料としたいと思っております。

また、市民への広報、情報提供として活用することによりまして、環境教育関係事業に関する情報収集の効率化や、各事業への参加を促進しまして、環境教育・環境学習をさらに推進していくことを狙いとしております。

(3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実、(4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押しについての説明は以上でございます。

○太田会長 ありがとうございます。

それでは、(3)と(4)を中心に、ご意見やご質問はございませんか。

まだご意見をいただいていない委員も、ぜひお口を開いていただけるとありがたいです。

○荒山委員 9ページに小野幌エコクリーン、こどもエコクラブと書かれているのですが、札幌市内でこどもエコクラブに参加している団体はどのぐらいいらっしゃるのですか。

○事務局(阿部環境教育担当係長) 正確ではないですが、今年度は、おおむね八、九団体となっております。

○荒山委員 こどもエコクラブは、多分、小学生が対象だと思うのですが、小学校に在る間は、こどもエコクラブの中で活動しているのでしょうか。

○事務局(阿部環境教育担当係長) たしか小学生よりもっと上の年齢まで活動ができたはずですが。

○太田会長 この分野に詳しい委員はおられますか。係長いかがですか。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 確認しまして、後ほどご連絡させていただきたいと思います。

○荒山委員 分かりました。

中学校の中には、科学部がある学校もありますが、札幌市内の中学校には科学部がないところのほうが多いと思うのです。中学校の科学部に所属している生徒たちは、環境問題に対してとても敏感で、リーダーになるような活動及び考え方もすごくできると思うので、中学生を持つ親としては、札幌市として、それに所属していないお子さんたちが環境に意識を向けられるような事業をお願いしたいと思います。

札幌市の教育は、それこそ雪も入っていますし、札幌の中に住んでいるからこそ感じられる環境もあるので、一般の中学生たちが広く考えられるような事業をお願いしたいと思いました。

○太田会長 毎年、科学クラブの子どもたちがコンテストに参加してくれます。

私は、一昨年までコンテストの審査委員長をやっていましたが、去年は大沼先生でしたね。科学クラブの発表はどうでしたか。

○大沼副会長 昨年、環境コンテストを拝見させていただいて、科学部の発表は、きちんと自分たちでデータをとったり調査したりということを丁寧に工夫しているところがあって、まさに科学の見本だなと思いました。まず観察があって、観察したことをちゃんとデータで表現して、今度はみんなに分かるように発表していて、非常にすてきな発表があったと感動したのを覚えております。

ただ、それが全体でどのくらいあるのかと言われると分からないので、そういう学校がもっとあったらいいなという願いは確かにあると思えます。

○太田会長 中学校の校長先生の小路委員は、以前、宮の森の科学部を指導なさっていましたよね。

○小路委員 宮の森の科学部は潰れました。指導者が移ると、なかなか維持できなくなりました。スポーツ系は結構維持しようとするのですが、文科系の特に科学部は、そこでおしまいという形になってしまいます。

札幌市の中学校100校のうち、科学部があるのは、現在、8校ないし9校です。一昨年までは12校あったのですが、やはり指導者が異動するのでなくなることが多いです。

○太田会長 厳しい実態ですね。

○吉田委員 私は小学校におりますが、環境を広く学ぶためには、今ある学習として、やっぱり総合的な学習の時間であると思えますね。1時間のみで環境の勉強をするのではなく、深く学んでいくためには、それがどの生徒にも一番与えられている学習領域ではないかと思えます。

私は、川北小学校にいて、周りに店がそんなにあるわけではないですが、川下公園があったり、北郷公園があったり、まさに自然の中にある学校なので、うちの学校の総合的な

学習の時間は、どうしても自然環境相手に追求していくことになります。せっかくある川下公園ですし、あそこはライラックが非常に有名なので、うちの子どもたちはライラックに結構詳しいです。

ただ、中学校は中学校なりの事情があると思いますし、高校は、2年後ぐらいから総合的な探究の時間になります。まさに探究せよということになるので、総合的な学習の時間は、中学校も高校もこれからだんだん変わっていくのではないかと考えたときに、その学習対象となりやすいものの中に環境が必ずあるような気がいたします。SDGsの話もありますし、私はそういうチャンスがこれからどんどん増えていくような気がしていますので、札幌市もそれを応援していただけるとありがたいなと思っています。

○太田会長 今の実態は8校ですか。そんなに減りましたか。科学部8校は衝撃を受けました。

私は、中学生のときに科学部でしたが、あの頃は、たしか地域で発表会なんかをして、結構盛んだったかなと思うので、驚きました。

小・中・高、そして、大学の実態も出されていますが、教員養成もやっておりますので、先生方の研修の場がたくさんできれば、育てるという視点から伸びていくのではないかなと思います。

宮森委員、何かご意見はございますか。

○宮森委員 先ほど出ていた環境コンテストの中学校の部の発表は、科学部が三つ入っていて、8校のうち3校が発表しているということは、科学部の発表が多いのだなと思いました。去年、審査員をやらせていただいたときに、科学部の生徒の視点が新しく、大沼先生と感心していました。

私から質問ですが、最後の10ページのところで、これから環境教育・環境学習レポートを作成されるということなのですが、例えば、先ほど発表していただいた高校生の活動の内容も入るのでしょうか。

○事務局（阿部環境教育担当係長） あくまでも札幌市が主体となっている取り組みを取りまとめたいと思います。こちらは、高校生が主体的にやっているということです。

○宮森委員 これを見ていて、一番最初のページにはSDGsのアイコンが入っているのですが、その後のページで、ゲーム開発のところはどういうアイコンになるのか、商品開発のところには、多分、「12 つくる責任つかう責任」も入るなど、アイコンを入れていただくと、SDGsとのつながりが分かりやすくなると思います。

このゲーム開発もそうですが、大通高校の学生たちは良い活動しているので、環境プラザの学生サポーターに入ってもらうことで、プラザの活動にもプラスになると考えますが、学生サポーター制度では、現在、実際に何人くらい活動されているか分かりますか。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 大変申し上げにくいのですが、今、人数が減ってしまして、1名なのです。年度ごとに募集はしていますので、来年度に向けまして、募集の方法もそうですし、学生さんにやりたいと思っていただけるように、こういう良いことが

あるとお伝えできるように考えているところです。

○宮森委員 大学生だけではなく、高校生も入れるのですか。

○事務局（阿部環境教育担当係長） 大学生ということになります。

○宮森委員 今年度のエコライフレポートが「SDGs マスターになろう」ということで、札幌市は進んでいるなと感じました。しかも、回収率がとても良く、夏休みに実施していることから、家族に「SDGs マスターとは何か」と聞かれたときに子どもたちはきちんと説明できているかなと思いました。先生から子どもたちにエコライフレポートを渡すとき、その説明がありますか。

○太田会長 これは、福岡委員か野崎委員が詳しいのではないかと思います。

○野崎委員 まず、感想として、これを見たときに、1年生がSDGs と言ってしまうのだと思って、衝撃的でしたね。でも、これが大切だと思います。今、僕たちがここでやっていることは、広めることと深めることと二つのことを話していると思っています。リーダーに向けての深めるというところ、また、これは絶対知らなければいけないことです。

僕は、札幌市の防災教育のほうもやっていて、先日、高校生の授業を見せてもらいましたが、専門的にぐっと行く子たちもいるし、その授業をとっていない子は防災教育が全く分からないです。でも、知らなければいけないですよ。環境教育も同じだと思っていますので、先ほど話を聞きながら、やっぱり同じところがあるなと思いました。これは絶対知らなければいけないことなので、1年生がこれを手にとって、先生にこの紙を配られて見たときに、これは何だということになるので、当然、私たち教員は子どもの前でこの説明をします。

形式や言葉は違いますが、毎年配っているものですので、子どもたちもすっかり慣れてくれています。6年生などは、またかみたいな感じだと思いますが、新しい言葉についての知識を伝える場ですね。これも夏と冬の年2回、札幌市に6年いる場合は、それが12回です。これだけの数を経験するのは非常に大切なことではないかと思います。

先日、担任が休んだクラスがあって、教室に入ったら、プラスチックのストローの話をしていた子がいました。やっぱり、知るということは、ちょっと考えたり、意識を持つことにつながると思うので、先ほどの答えで言うと、しっかりと説明しながら一緒に丸をつけて、時間をとってやっているクラスが大半だと思います。

○太田会長 私も事業が始まった頃、各学級に配付するに当たって、これは定着するだろうかという思いだったのですが、毎年、ぐんぐん伸びています。意識も非常に定着して、その子たちが、今、大学生や教員になっていますから、指導上かなり違うのではないかと思います。これは、ぜひ続けるべきだと私も思っております。

○隅田委員 今のエコライフレポートの取り組み学校数は100%だともいいのですか。

○事務局（沼倉推進係） 市立の全小・中学校に配布して、冬休み明けの学級閉鎖によりなかなか難しいというのはあったのですが、基本的には、ほぼ100%です。分校で一部

実施が難しいというのをございますが、基本的には100%回収しております。

○太田会長 (1)から(4)まで全体的に出ておりますので、全体を通してご意見がございましたらお願いいたします。

○江田委員 機会の充実に絡みまして、資金面だったり、指導者の方のお話ですが、私の子どもは小学生ですけれども、先日、青少年女性活動団体からリーダーの方を派遣していただいて、SDGsのカードゲームの授業をしていただきました。

私の子どもの小学校の元PTA会長をされていた方がこの会長をされていたので、声がかかったということで派遣をしていただいたのですが、今年度は、他の小学校が2校、合わせて3校しか派遣されていないということで、中学校はもうちょっと多いというお話でした。その内容を小学校の現場の先生から伺ったのですが、とてもいい内容で、SDGsの内容も分かり、かつ、みんなで話し合うことが大事だという内容だったそうです。

予算面は、青少年女性活動団体の方がCSRということで企業に募ったそうですが、もし先ほどの講師派遣、リーダー派遣の予算がとれない場合、企業さんにCSRをお願いするとか、北海道はクラウドファンディングで事業をされる予定だったのが、目標額の0.4%しか集まらなかったということが記事にも載っていましたが、そういった方法もあるのではないかと思います。また、外部団体ということで、こちらのメンバーにもNPOの方がおられますけれども、他のところでも、環境関係のNPO団体の方はとても専門的な知識をお持ちなので、ぜひ有効活用していただきたいのです。ここには企業の方もおられるので、企業の方がCSRやSDGsを推進していくメリットをどのように考えておられるか伺いたいと思います。

また、NPOの方にも、SDGsをどう進めればいいのかという専門的な知識をアドバイスいただければと思います。

○太田会長 今、いろいろな情報を可能性も含めて聞かせていただきました。企業という話がありましたけれども、北ガスから西塚委員がいらっやっています。北ガスとしてということでも結構ですが、環境に対する思いを聞かせていただければと思います。

○西塚委員 SDGsは世の中にとって良いことだということは自明ですが、特に私どものようなエネルギー会社は、展開している事業をSDGsのアイコンにはめようと思えば、ほぼはまっていたりします。はめたものを、大きく世の中に打ち出すということ自体、できなくはないですが、それだけでは単なるアピールしているみたいで、やはりものに後づけ的に、やってますみたいなことをストレートに出すだけなのはどうなのかと考えています。例えば、それこそ関係なさそうな飢餓をゼロにするというゴールに対して、当社としてできることがないだろうかということも含めて、一つ一つをきちんと吟味してやっていくことが大事だと思っています。

アイコンをはめようと思ったら、当社の会社案内の全てのページに入れることができ、入れてやっていますとPRするだけになってしまうことは本意ではありません。この課題について、教育現場との連携含め、地域社会の方々にメリットとして感じてもらえる取り

組みとリンクする形で、社内でどうやっていくか議論しているところですが、まだアウトプットには至っていないというのが正直なところです。

ご質問の答えになっているか分かりませんが、以上です。

○内山委員 私は企業人ではありませんが、企業と組んで、いろいろな助成事業を実施しております。企業が自分のところの売上げを削って、非営利団体に助成金を出すことによって、自分たちができない範囲で環境保全活動を行う、例えば、今日お配りしているのですけれども、北海道e-水プロジェクトというものがあります。

こちらは、北海道コカ・コーラボトリングさんとのつながりでやっているものです。今年で10周年になりまして、延べ101団体に助成金を出してきました。こういった団体とコカ・コーラさんの社員がつながることによって、北海道の環境問題を知ることができますし、いろいろなSDGsも関連して取り組みを進めていくことができるということが大きなメリットだと思います。

コカ・コーラさんも、非常にたくさんの社会貢献活動やCSR活動を行っていてその内容を、CSRレポートとして発行し、実際にSDGsアイコンをつけています。ただ、ほかの企業で最近、アイコンをやったつもりというSDGsウォッシュの動きが散見されます。そういった取り組みにならないためには、やっぱりSDGsの本来の目標である誰一人取り残さないというところをちゃんと企業の方針として考えていく必要があると思います。

○坂本委員 今のお2人の発言に共感です。NPOは、もともと社会課題の解決的なミッションを持って立ち上がっていますが、企業も行政も当然そういう役割を持っていて、1番から17番に振り分ければ何かはやっていますということになるかと思うのですけれども、ひもづけをしながら自分たちはどういうことと関連しているのかを考えることは入り口としてとても大切だと思うのです。けれども、やっていますと言って終わってしまっただけは全く意味がなくて、これはイノベーションだ、変革をするのだ、改革をしていくのだという宣言であることが一番大切なので、今まで見ていなかった方角から見ると、これとこれはつながっているとか、これとこれを一緒にやろうとって変革になっていくことが一番大切だと思います。

バッジをつけて、SDGsウォッシュにならないようにしなくてはということは、私たちの周りでもよく話しています。NPOでもいろいろな活動を皆さんがやっちらっしゃるし、SDGs研修を大学単位とか、今年は後志振興局の受け入れで大学生のインターンを受け入れました。私たちのところは、SDGsとはという概念を具体的に自分の生活のこの食べ物や、着るものなど暮らしの中で、どうしていったら良いのかと考えていく体験学習を行っており、大学生は、1泊2日で一緒にご飯をつくったり、お皿を洗ったりしながら、なるほど、この水が川に流れているのだね、だからこうやって拭くのだねというふうに、暮らしをともにすると、次の日のシェアリングのときの気づきが深いと感じています。

ただ、皆さんはそこまでできないと思うので、出前をしていくということも今後はやらなければいけないと思うのですが、もともとボランティアでやっているような団体なので、そこまで持ち出しは苦しいので、その辺を企業とか行政の皆さんにサポートしていただけたらありがたいと思っています。

○太田会長 ありがとうございます。

委員会の性質上、教育現場の人間が多いのですが、今の坂本委員のお話は、本当に別角度からのお話で、非常に勉強になりましたし、つながりとコラボという話もありました。教育単独ではなかなか達成できないことのお話が出てきたと思います。

これは、みんな現場に持ち帰って、それぞれの立場で働きかけをしていくわけですから、今のご発言は大変貴重でありたいと思って聞いておりました。

全体を通して、増渕委員から、ご感想がございましたらお願いいたします。

○増渕委員 いろいろな活動が丁寧に行われていることがすごくよく分かりました。ただ、最近、グレッタさんみたいなすごい発言があって、あれを聞いたときに私は本当に衝撃的だったのです。すごいなと思いました。

国際的な面で見ると、日本はそういうものが非常に遅れぎみであると本当に強く言われていて、むしろグレッタさんみたいな年齢に近い若い子どもたちのほうが、もっと行動的であったりするのではないかと思います。日本の子どもたちもそういう面は持っているのではないかと思います。先ほど、高校生がすごく頑張っているという話が出ましたが、もう少し活動のグレードを高くするようなことができないかと思ったのです。

例えば、お金があるかどうか分かりませんが、国際的なところに札幌の高校生、若い子を派遣するとか、その子たちが発言したことをみんなで応援しながら、また、その話を聞きながら広めていくことが必要だと思います。同世代だからこそ共感できることがすごくあって、活動そのものはすごく大事なわけけれども、今のままではある意味、停滞している感じもしますね。大事ですし、みんな取り組んでいるわけけれども、それは余り表に見えていないのか、そこそこの取り組みなのか、この取り組みでいいのだろうかというふうに若い子が思っているかもしれないと実は思っているのです。もう一段階、工夫ができればいいなと思ったりしています。

○太田会長 大変貴重な意見をありがとうございます。大学関係者も頑張らなければいけないなと思いながら今のお話を聞いていました。

会議の内容ではなくて、会議運営を含めてご意見なりご要望なりはございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○太田会長 最後に副会長にまとめていただいて、事務局にお返ししたいと思います。

○大沼副会長 いろいろなお意見、ご発言、ご提案をありがとうございます。私自身も非常に勉強になりました。

最後の増渕委員の発言は非常に難しく、特にここに集まってくださっている委員も、環境をやっている方々はみんなそうなのですが、割と慎重深いというか、俺が俺がみたい

なアピールをしないというか、環境教育の理念そのものも、真剣に考え行動するということですので、まずは体験するとか行動するということが第一だというのは、このメンバーのかなり初期から共有されていたものだと思います。そういうものをすごく地に足をつけて展開しているという点では、誇りに思っていると思う一方、発信するのがただ上手なのは、それはどうなのかとみんな思いつつ、そういうものも大事だというあたりをどうしたら良いのかというのが最後の話だったのかと受けとめました。

確かに、北ガスさんがおっしゃったとおり、自画自賛していると何だと思われてしまうので、今日の資料ですと9ページの下から10ページのあたりに、中間支援とか、きたネットの紹介がありましたけれども、内山委員がおっしゃったとおり、例えば、企業やボランティア団体と協働する、誰かが誰かをお互いに持ち上げ合っていくような、背中を押しかつていくというか、肩車し合っていくというようなネットワークをつくることも大事なのかと感じました。

今、環境教育・環境学習レポートを庁内で取りまとめ中であるとお伺いしました。もちろん、市役所も、縦割りでここだけというのではなくて、あちこちから集めるというのも非常に大事なことです。ぜひそれはきちんとやっていただきたいと思います。

同時に、小路委員が先ほどおっしゃっていただいたとおり、散逸してしまうと、パワーがあるものがパワーがないように見えてしまうので、逆に、散逸しているものも集めると、すごくパワーがあるように見えるということもあると思いますので、市役所庁内と言わず、ぜひこういうものをたくさんアーカイブしていただいて、アーカイブしたものをまとめて発信するという取り組みもぜひ今後進めていただきたいと思いました。

また、これも発信の仕方が非常に難しいのですが、分かりやすい例で言うと、クリック募金も待ちのものだと思うのですが、もうちょっとプッシュ型のものをやってもいいと思うのです。確かに、地に足をつけて、実践、現場第一なのだけれども、プラスアルファで発信するというのもうちょっとやってもいいと思います。今風のアプリをつくるぐらいのことはやってもいいと思います。もうちょっといいアイデアがあるのかもしれませんが、そういうものがあってもいいと感じました。

あまりうまいまとめになってなくて恐縮ですが、皆さんと一緒にそんな方向へ向かっていけたら良いのかなと感じました。

ありがとうございました。

○太田会長 ありがとうございました。

本日の会議は、私も力を得るところがありまして、本当にありがたかったと思います。

ご意見、ご質問、ご提言までございましたので、どうか事務局で道筋をつけていただければと思っております。

それでは、本日の議事は全て終了いたしました。

事務局からの連絡事項ということで、お返しいたします。よろしくお願いいたします。

○事務局（阿部環境教育担当係長） それでは、事務局から、次回、令和元年度第2回の

委員会の予定についてご連絡いたします。

例年どおりとなりますが、来年3月を予定してございます。

後日、日程調整をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

最後に、内山委員からご紹介をお願いします。

○内山委員 先ほどもご紹介させていただきましたが、e-水フォーラムは、今週の木曜日に開催します。海洋プラスチック汚染の現状ということで、専門家に講演をいただく予定です。もしよろしければ、ぜひ足を運んでください。

もう一枚、北洋銀行さんと連携してやっている、ほっく一基金という生物多様性保全制度の概要です。先ほど科学部の話がありましたが、学校の本来のカリキュラムではなくて、生徒の部活動であれば申請できますので、ぜひこちらもご検討ください。

e-水プロジェクトも、年明けに募集を開始する予定です。精算などがない10万円のコースも新設していますので、使いやすいのではないかと思います。

○太田会長 情報提供をありがとうございました。

3. 閉 会

○太田会長 それでは、これもちまして、令和元年度第1回札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会を終了いたします。

本日は、長時間にわたり、また、お忙しい中をご出席いただきまして、どうもありがとうございました。

以 上